

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあかり(岐阜苑)
(ユニット名)	真の間
所在地 (県・市町村名)	岐阜県岐阜市
記入者名 (管理者)	小森 摩己
記入日	平成20年 4月24日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中に出掛け、情報交換することで、ホームの生活に違和感なく地域の一員になって頂けるよう、安心できる空間をつくりあげています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	はじめに、職員には理念を伝え、玄関・事務所に掲示し、常に目につく様になっています。会議等でも常に話し合いをしています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には契約時に説明をし、その後は「ホーム便り」を発行し伝えていきます。地域の方には、散歩や行事に参加する事で、ホームでの生活を理解して頂いています。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中、隣近所の方や畑仕事の方に、笑顔で挨拶をしています。畑仕事の方から「野菜を持ってって」と声をかけて頂いています。玄関のポーチには、テーブルとイスが設置されており、近所の方が散歩途中等で立ち寄って頂いています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の方々から敬老の日にはプレゼントを頂いたり、地域の行事には積極的に参加し、交流させて頂いています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内の集会に出席し、ホームの概要を説明したりしています。地域の高齢者の方が、気楽に遊びや相談に来て頂けるように声かけをしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を実地する意義を職員が理解するよう話をしています。評価結果に基づき、話し合い、取り組んでいます。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組んでいる内容等報告し、意見を頂き、有意義な話し合いになるよう心がけています。		運営推進会議での意見を参考にし、良い事は実践する様、今後も取り組んでいきたいです。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の生活福祉の方が、定期的に巡回に来苑して頂いています。常に連絡が出来る体制にあり、必要に応じて相談・報告・確認をし、質の向上に取り組んでいます。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフ会議にて、資料を元に学ぶ機会をつくり、理解を深めるようにしています。必要の可能性がありそうな方については、管理者で十分に話し合いをしています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、意識を十分に持ち注意を払っています。虐待については、包括支援センターに連絡し相談するよう話し合っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、入居者様やご家族様の不安を軽減出来るよう、ケアに関する考え方や取り組み等、納得して頂けるよう丁寧に説明し、見学もして頂いています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様が意見や不満を、職員に気楽に話しやすい環境づくりを心がけています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月次報告で身体状況や、外出や行事の内容、その他連絡事項等を記入し、金銭出納も報告させて頂いています。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置しています。ケアプランの話し合い、面会、家族会を開催し、意見を聞いています。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度スタッフ会議を行い、意見及び提案を聞いています。又、日頃から問いかけするように心がけ、意見を言いやすい雰囲気作りに努めています。</p>		<p>今後も、意見を出し合い取り組む事により、意欲の向上・質の向上に繋がりたいです。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>時間差出勤により、幅広い時間対応が、出来る様にしています。場合によっては、入居者様の状況に応じて勤務の調整を行っています。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の個々の意見に耳を傾け、離職者が最小限に抑える努力をしています。信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応する事が重要であり、移動等やむを得ない場合は、引き継ぎ面で最善の努力をしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて随時指導しています。専門職の免許保持者によるトレーニングは、日々進めております。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換をし、交流する機会を持ち、ホームの質の向上に繋がるように取り組んでいます。	今後、更に交流を増やし、事業所や地域全体のサポート水準の向上に繋がりたいです。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は、声を掛け合い確保出来るようにしています。親睦会を行い、気分転換が図れる機会をつくっています。	今後も、職員がストレスを溜め込まない環境づくりをしていきたいです。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も現場を訪れ、参加をし、コミュニケーションを図り、管理者からも状況を聞き、職員が向上心を持てるよう職能評価をしています。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	事前面談をし、聞き取りを行い、生活状態を把握するため、入居者様の思いを傾聴するようにしています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	事前面談を通じて、ご家族様の苦勞・不安等をゆっくり傾聴し、理解できるように心がけています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を見極め、場合によっては、他のサービス事業所を勧める等、適切なサービス利用を受けられるようにしています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面談の時に話し合い、ご入居様・ご家族の希望に添えるように対応し、ご入居様に合わせて馴染めるように相談しながら対応をしています。		
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「家族」のような関係が築けるよう、一緒に家事をしたり、食事を取り、共に支え合い生活出来る関係づくりをしています。人生の先輩として沢山のことを学んでいます。		第二の家として、協働しながら、泣いたり、笑ったり、遠慮されることなく、和やかに生活ができるような関係を築いていきたいです。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	喜びも悲しみも共有し、ご家族様と共に支えて行く努力をしています。ご家族様の笑顔もみられるような関係を築いています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お互いの思いを受け止め、状況をよく把握し、相談や助言をする事で、良好な関係を築いて行けるようにしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い頃からの友人の訪問・外出・手紙等、途切れないよう支援しています。大切にしてきた馴染みの場所は、他入居者様と一緒に掛ける機会を作っています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居者同士、良い関係が築けています。入居間もない方には、職員が関わりを多く持ち、仲介し、良い関係を保てるようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関わりを必要として下さるご家族様には、近況をお聞きし、相談を受けています。又、近くに來たので寄りましたと、ホームを尋ねて下さるご家族もあります。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや希望を日々の会話から把握しています。どのように暮らすことが最良なのか、ご家族様を交えて検討しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時、なるべく多くの情報を得て把握しています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解したうえで、職員の申し送りを密にし、職員が声を掛け合いながら、総合的に把握するよう努め対応しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	十分なアセスメント収集を行い、入居者様・ご家族様と話し合い、意見を出し合い、その意見を反映し出来るよう、介護計画を作成しています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じ、見直しが必要な場合には、主治医の指示を受けたり、ご家族様・職員と随時話し合ったうえで、計画を作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、介護記録ファイルに、日々の様子や入居者様の言葉等を詳しく記録し、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		個々の小さな変化を見逃さず、今後も統一した関わりが出来る様に活して行きたいです。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様・ご家族様の状況・要望に応じて柔軟に支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署職員による避難訓練、民生委員の方との意見交換、ボランティアの方による援助を受けながら支援をしています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者様・ご家族様の意向を伺い、必要であれば他事業所のサービスを受けられるようにしています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの方とは、お互いが訪問し合い連携を取っています。運営推進会議にも必ず参加して頂いています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回～2回の往診を受けています。緊急時は受診し、適切な指示を受けています。又、入居者様のかかりつけ医を希望される方は、希望に添った対応をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に総合的に診て頂いております。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護が週1回行われています。入居者様の健康管理をして頂き、アドバイスを受けています。併設の小規模にも看護師が勤務している為、状態変化にも対応できるよう体制が取れています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居様が入院された時は毎日お見舞いに行き、洗濯物の管理、本人の環境変化で認知症が進まないよう声かけ、話を傾聴しています。病院の医師、看護師からも経過説明を受け、ご家族様にも連絡を入れております。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要と思われる方には、重度化した場合や終末期になった場合について、ご家族様と話し合いをしています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現時点で終末期医療の方は見えませんが、今後重度化する可能性のある方に関しては、急変時の対応について、話し合いをしています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族様や関わる関係者間で話し合い、情報交換をしています。その後も分からない点は、連絡を密に取り、環境の変化によるダメージを少しでも軽減するよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに尊厳を持ち、誇りやプライバシーを配慮した言動を心がけています。個人情報の取り扱いに関しては、細心の注意をしております。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の指示ではなく、入居者様の思いや希望を表出できるよう、時間をかけ話をし、納得される対応をしています。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を配慮しながら、一人ひとりに合わせ、気持ちを大切に過ごして頂いています。	今後も一人ひとりの思いを大切に、生きがいをもって過ごして頂けるよう支援して行きたいです。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その時の気分で「美容院へ行く」と言われる方は、その都度お連れしています。ホームでの美容師によるカットも提供しています。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛り付けなど、一緒に出来るような雰囲気づくりをし、楽しく食事をして頂けるようにしています。また、食べたいメニューをご自分でつくれる機会もつくっています。	お客様として食事をするのではなく、家族として一人ひとりの力を活かし協力しながら行うことにより、張り合い、自信、楽しみとして頂けるよう、今後も心身の力の向上に努めていきたいです。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は、希望に添った物を飲んで頂き、おやつも一緒に買い物に行き選んで頂いたりしています。アルコールは、花見や夏祭り等の行事の時のみ、飲んで頂ける体制をとっています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの状況を話し合いながら、基本はオムツではなくトイレ誘導とし、失禁をなくすようにしています。		今後も、トイレでの排泄は、生きる意欲の自信に繋がるため、可能な限りトイレでの排泄をして頂けるよう努めていきたいです。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の基本時間帯は決まっていますが、入居様が「入りたい」と言われれば、いつでも入浴できるようにしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況、ペースに合わせて、休憩できる環境にしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事が得意な方、畑仕事が得意な方、外出が好きな方、一人ひとりの力を発揮し、楽しみながら張り合いを持って頂けるようにしています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームが管理しています。一人ひとりの状況に応じ、買い物等では自分で支払って頂けるようにしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に合わせた行事への外出、散歩、買い物、外食等日常的に外出して頂けるようにしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者様の自治会を作り、自治会の中で一人ひとりが行きたい所を出し合い、話し合い、職員へ報告されます。職員が検討をし、希望にそえるよう努力しています。		今後も自治会で意見を出し合い、職員に伝えられる環境を作っていきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方が数名みえます。ホームの電話も希望されればかけられる体制です。手紙のやり取りは職員が手伝っています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は、24時間365日いつでも出来ますと説明してあります。御家族様だけでなく、友人の方がよく面会に来て下さいます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、1ヶ月に1度必ず開催しています。開催以外にも、その日の中で身体拘束を行っていないか意識し、話し合っています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放していますが、外から不審者が入ってくることもある為、時間帯によっては危険を防ぐ為、鍵をかけることもあります。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員がさりげなく声かけ等をし、所在確認をしています。夜間帯は2時間に1回以上の巡視をして把握し、安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	歯磨き粉、クレンジングクリームを食べてしまわれる方もみえます。一律になくすのではなく、一人ひとりの状態を把握し危険を防いでいます。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会を設置し取り組んでいます。ヒヤリハット報告書にて、職員の共有認識を図り、事故を防いでいます。転倒防止、危険を察知する為、離床センサーが2台稼働しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署職員による救急救命講習にて指導を受けています。一人ひとりの身体状況を把握し、初期対応の方法をスタッフ会議でも話し合っています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員による避難訓練、消火器の使い方の訓練を受けています。運営推進会議にて、地域の方との連携について話し合っています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	医師より今後起こりえるリスクについて指示を受け、ご家族様と話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に職員は変化を見逃さないよう取り組んでいます。以上があれば看護師が主体となり、対応をしています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は、すぐ確認できるよう保管しています。内容、配役の仕方等、職員は細心の注意を払っています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分、食物繊維の多い食べ物を工夫し、多く取り入れています。散歩やパワーランナーで体を動かして頂くよう働きかけ、取り組んでいます。		散歩へただ行くのではなく、腹筋に力を入れ歩いて頂けるよう声をかけ、意識して頂けるよう取り組んでいきたいです。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけをし、その方に応じて介助しています。訪問歯科と提携しており、口腔ケアや治療も受けられるようにしています。		今後も口腔ケアの重要性を理解して頂けるよう、説明を続けていきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて量、栄養が確保できるよう、一人ひとりにあった対応をしています。トロミを使ってみえる方も二人みえます。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防委員会を設置し、取り組んでいます。感染マニュアルを作成し、対応策を出し、予防もしています。		今後も感染予防には力を入れ、職員が感染予防についての知識を更に持てるようにしていきたいです。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日台所・調理用具の衛生管理を行い、買い出しも1週間に3回以上は行き、新鮮で安心して食べられる食材を購入しています。調理、配膳前には手洗い、消毒をしっかりと行い、食中毒予防をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にイス・テーブルを設置し、休憩して頂けるスペースを設けています。玄関周囲には花を飾り、心安らげるようにしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	北側に面する壁は全面ガラス張りになっており、車が往来する様子や景色を眺めることで、外部と遮断された雰囲気にならないようにしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを2つ設置し、入居者様同士のコミュニケーションが取れるようにしてあります。また、談話室もあり、一人になることも出来る空間があります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んで頂き、ホームでの生活に違和感のないよう心掛けています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に換気・冷暖房設備があり、温度計を見ながら常に調整しています。天気の良い日は窓を開放し、空気の入替えも行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対策が取ってあります。トイレ、浴室、廊下には手摺が設置してあります。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの理解できる範囲を把握し、必要な部分の手助けをし、出来ている部分は自立して頂けるよう、その方に合わせた対応を心掛けています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関側、南側の芝生には、イスとテーブルが設置しており、天気の良い日はおやつや昼食を外で楽しんでいます。		今後も外の自然な風に触れながら、地域の方とももっと交流し、一緒にコーヒーが飲めるよう取り組んでいきたいです。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人らしく尊厳を持って接し、笑顔のある暮らし「あなたの笑顔がみたいから・・・」を理念にあげ、日々努力しています。ホームが第二の生活の場として、家庭的な雰囲気、家族のように一緒に楽しみ、悩み、話し合っ生活をしていきたいと思っています。外出する機会を多くつくり、楽しみながら季節を感じ、ゆったりと穏やかに過ごして頂けるよう取り組んでいます。